

古川工高 建築科生徒が現場実習

2年生インターンシップ

古川工業高（大高和義校長）建築科の2年生39人が、4日から7日までのうち3日間、職場研修（インターンシップ）の一環で事業所や建築現場などで実習を行った。生徒たちは現場の雰囲気に触れて授業で学んだ知識を深め、進路選定の参考にしていた。

古川工業高（大高和義校長）建築科の2年生39人が、4日から7日までのうち3日間、職場研修（インターンシップ）の一環で事業所や建築現場などで実習を行った。生徒たちは現場の雰囲気に触れて授業で学んだ知識を深め、進路選定の参考にしていた。

古川工業高（大高和義校長）建築科の2年生39人が、4日から7日までのうち3日間、職場研修（インターンシップ）の一環で事業所や建築現場などで実習を行った。生徒たちは現場の雰囲気に触れて授業で学んだ知識を深め、進路選定の参考にしていた。

古川工業高（大高和義校長）建築科の2年生39人が、4日から7日までのうち3日間、職場研修（インターンシップ）の一環で事業所や建築現場などで実習を行った。生徒たちは現場の雰囲気に触れて授業で学んだ知識を深め、進路選定の参考にしていた。



社員から説明を受ける生徒たち

などの説明を受けると、図面と見比べながら熱心にメモを取っていた。

進学を志望し、建築デザイナーを目指すという阿部未来さん(17)は「写真と実際に見るのとはまったく違う。現場で得た知識や感じた雰囲気を、これからの勉強や進学、就職に生かしていきたい」と話していた。

3人を引率した同社売買営業課の平吹淳第二課長(47)は「生徒たちは具体的な進路や目標を持って実習に来る。こちらも大いに刺激を受けるし、将来一緒に仕事ができたらうれしい」と語っていた。

実習で学んだことは、11月15日の体験発表会で披露する。